

熊本地震から学んだこと

今年の4月、熊本を震度7の地震が襲いました。熊本地震です。この熊本地震によって多くの建物が倒れたり、道路が壊れたりしました。また、熊本地震についてのニュースが今でもたくさん流れています。僕がそのニュースを見て心に残っているのは、復興へ向けて来られた、たくさんのボランティアの方です。休日や特にゴールデンウィークの時にはたくさんのボランティアの方が来られていました。このような光景は2011年に起きた東日本大震災後も多く見られたのを覚えています。自分の仕事を休んでまでも、そして、遠方からでも、本当にたくさんの方が汗を流しておられました。そのすがすがしい姿に感動しました。させられているのではなく自主的な活動、そして無償の活動。地震後の復興のためにがれきを撤去したり、支援物資を運んだりと本当に大変な仕事を黙々とされていました。そんな映像を見ていると、「自分は何をしているのだろう。こんなとこにいていいのだろうか。」などと考えたりもしました。苦しんでいる人がいるのに自分は何もしなくていいのか思ったこともありました。

そんなことを考えているうちに、ボランティアには大きく二つあるのではないかなと思うようになりました。「大きなボランティア」と「小さなボランティア」です。大きなボランティアは前に述べたような大きな貢献ができるものです。一方、僕が考えてる「小さなボランティア」とは前者のような大きなものではなく、日常生活のなかのさりげないことです。例えば友達が重たいものを運んでいたら少し分けてもらって手伝うことや、ちょっと元気のない友達がいたら、声をかけることです。このような行動は大きなボランティアに比べると、本当に小さいし、些細なことかもしれませんが、しかし、された方も、した方もすがすがしく、そして嬉しい気持ちになる点では、間違いなく同じだと思います。実際に僕もどちら側の立場でも経験があります。僕だけでなく、誰でもあることでしょう。特別なこと、大きなことではなくても、小さい、さりげないことで互いの心が通じ合うことができると思います。

しかし、もしかすると「そんなのボランティアとは言わないのでは。」という人もいるかもしれません。確かに、多くの人と言うボランティアとはちょっと違うかもしれませんが。でも僕は、困っている人の支えになる、そして人と人がつながっていくことには何の間違いもないと思うのです。「これが、ボランティアだ！」という旗をかざさなくても、いつでも、どこでも、誰にでもできるボランティアもあると思うのです。

最近、私はある人が言っていた言葉が印象に残っています。「すべてはつながっている。」という言葉です。例えば、スリッパを並べることは見えない誰かのためにつながっている。ゴミを拾うことも、見えない誰かのためになる。ということでしょう。たとえ、知らない人であっても、どこかでつながっているのです。そう考えると、大きくはなくても、小さなボランティアの大切さに改めて気づかされます。

熊本地震は本当に甚大な被害をもたらしました。建物だけでなく、人の心をも変えてしまうくらい大きなものでした。これからのさらなる復興を願うばかりです。だからこそ、今、この小さなボランティアを行っていくべきだと思います。小さなことをコツコツ積み重ねることこそが、多くの方の大きな支えになるのだと思います。